

## 構造改革特別区域計画

- 1 構造改革特別区域計画の作成主体の名称  
静岡県 磐田市、磐田郡福田町、磐田郡竜洋町、磐田郡豊田町、  
磐田郡豊岡村（平成17年4月1日に磐田市として合併予定）
- 2 構造改革特別区域の名称  
「歴史と文化のまち、ふるさと先生制度」特区
- 3 構造改革特別区域の範囲  
静岡県 磐田市、福田町、竜洋町、豊田町、豊岡村の全域  
（平成17年4月1日合併予定の静岡県磐田市の全域）
- 4 構造改革特別区域の特性

### (1) 新磐田市の地域について

平成17年4月1日合併予定の新磐田市は、日本のほぼ中央、静岡県西部の天竜川東岸に広がる地域であり、遠州灘に面し、北は天竜市、西は浜松市や浜北市、東は袋井市、森町及び浅羽町と接しています。

奈良時代には、遠江国分寺と遠江国府が置かれ、古墳時代の約500基以上の古墳が現存するなど、歴史が語りかける“まち”であり、江戸時代には、東海道五十三次見附宿として繁栄するなど、東西交通の要衝として発展してきました。

近年では地場産業である繊維産業に加え、金属、自動車、楽器などの工業都市として、新市全体の製造品出荷額等は県下第1位、農業産出額も県内屈指で、都市部と農村部が均衡ある発展を遂げている地域です。

文化面では、住民参加による芸術祭、こどもミュージカル、こども劇団や、竜洋フェスティバルオーケストラ、ガラス・金属造形をはじめとする創作活動など各種の文化活動が積極的に行われている地域であり、プロサッカーチーム「ジュビロ磐田」のホームタウンであることや、磐田スポーツ交流の里“ゆめりあ”など、各種施設の充実もしています。

環境面では、磐田原台地の東縁にある「桶ヶ谷沼」には、絶滅危惧種に指定されているベッコウトンボをはじめ、約67種のトンボが生息し、トンボの楽園とも呼ばれているほか、北部の森林資源や南部の遠州灘など、優れた自然資源が残されています。また、それを利用した海浜公園や都市公園・緑地など、すばらしい環境資源を有しています。

新磐田市では、これら様々な特色を踏まえ、「自然あふれ、歴史・文化薫るゆとりと活力のまち」を将来像ととらえ、特に教育・文化面では、「生き生きと学び、心豊かな人を育むまちづくり」を基本方針とし、教育を通じた人づくりを進めます。さらに教育目標を、「ふるさとを愛し、未来をひらく、心豊かな磐田市民」、学校教育の目標を、「心豊かで、たくましい磐田の子」とし、確かな「学びの力のある子」、「郷土を愛する豊かな心を持つ子」を育てます。

合併を目前にした1市3町1村では、新たな教育への対応をするために、学校長のリーダーシップのもと各校の自慢をつくる「学校自慢づくり事業」や「魅力ある学校づくり事業」、地域に開かれた学校を目指し、外部評価等も導入した「学校評議員制度(学校協議会制度)」も展開しています。また、児童生徒の総合的な学習の時間のための「ふるさと学習サポート委員会」、国際化に対応した教育のための外国語指導助手(ALT)や「オーストラリア海外研修」、外国人児童生徒の学習の支援をする「外国人児童生徒学習サポート教室」などを実施しています。さらに教育相談体制の充実のために、不登校児童生徒のための「適応指導教室」、中学校における不登校ぎみの生徒の心のケアをする「心の教育相談員」などもあります。また、長野県長谷村との児童生徒の交流事業や、全国的に「竜」の字のつく町村の児童が交流する「ドラゴンフェスティバル」など特色ある活動も行われています。

新磐田市の地域では、現在小学校23校、中学校10校の計33校において、14,307名の児童生徒がこのような教育環境の中、学校生活を送っています。「心豊かで、たくましい磐田の子」を育むために現行の事業をさらに推進するとともに、平成17年度からは新たな施策として、新市独自の財源措置により市費負担教員を任用し、個に応じたきめ細やかな教育の推進を目的として、市内小中学校の全学年において、3年計画で少人数学級編制(35人学級)の実現を段階的に図っていきたいと考えています。

## (2) 児童生徒の実態

### ア 確かな学びの力の面より

#### ・ 新磐田市独自の学力調査から

磐南地区5市町村では、「新市(磐南5市町村)区域内児童・生徒の学習内容定着度を的確に把握し、今後の基礎学力向上に向けての指導法改善の基礎資料とする」ことを目的に、平成15年度より新磐田市予定地区内の全小学生と、中学1・2年生の生徒を対象として、独自

の定着度調査を行っています。実施時期は12月であり、昨年度は算数・数学について、今年度は国語を追加して実施する予定です。

本事業は、教師が問題を作成し、調査の実施、結果の集計・分析にあたります。昨年度においても、分析結果を各校が受け、自校の課題を洗い出し、教科部会や学年会等でその対策を立てました。結果と分析の一部は、次の通りです。

(学習内容の定着度が高かったもの) 問題数(小学校20問、中学校25問)

| 学年  | 領域   | 学習年 | 問題  | 正答率  | 分析と対策例                            |   |   |   |   |   |     |  |  |  |  |  |  |      |                                     |
|-----|------|-----|---|------|-----------------------------------|---|---|---|---|---|-----|--|--|--|--|--|--|------|-------------------------------------|
| 小1  | 図形   | 1年  | かたちがおなじなかまをせんでむすびましょう。(かんづめ・円柱、パッケージュズ - 直方体、紙箱 - 立方体)<br>No.8  | 99.5 | 具体物に触れる機会を今後さらに増やす。               |   |   |   |   |   |     |  |  |  |  |  |  |      |                                     |
| 小2  | 数と計算 | 1年  | おおきいほうに をつけましょう。<br>(65, 58)<br>No.6  | 98.5 | 問題の見落としをなくし、100%を目指す。             |   |   |   |   |   |     |  |  |  |  |  |  |      |                                     |
| 小3  | 〃    | 3年  | $\begin{array}{r} 23 \\ \times 3 \\ \hline \end{array}$<br>No.3   | 96.8 | ドリル、プリント学習を通し、計算力をアップする。          |   |   |   |   |   |     |  |  |  |  |  |  |      |                                     |
| 小4  | 図形   | 3年  | 次の( )にあてはまる数を書きましょう。<br>直角 = ( )°<br>No.7   | 91.2 | 90°を「直角」とが結びつくよう作図をさせる。           |   |   |   |   |   |     |  |  |  |  |  |  |      |                                     |
| 小5  | 数と計算 | 4年  | 次の( )をうめて表を完成させましょう。<br>1/100 1/10 もとの数 10倍 100倍<br>0.023 ( ) 2.3 23 230<br>0.57 5.7 57 570 ( )<br>No.10  | 98.0 | 位取り板を使い個別指導する中で、十進位取り記数法の定着を図る。   |   |   |   |   |   |     |  |  |  |  |  |  |      |                                     |
| 小6  | 図形   | 6年  | 下の立方体の展開図を完成させましょう。<br><br>No.15   | 94.3 | 様々な展開図を切り取り、立体を組み立てるなど、実体験を多くさせる。 |   |   |   |   |   |     |  |  |  |  |  |  |      |                                     |
| 中1  | 数量関係 | 中1  | 下の表にあてはまる数をかきなさい。<br>時速4kmで歩く時間と道のり<br><table border="1" data-bbox="550 1608 1011 1671"> <tr> <td>時間</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>道のり</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table><br>No.25 | 時間   | 1                                 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 道のり |  |  |  |  |  |  | 96.8 | できていない生徒には、具体物を活用し、時間と道のりの関係を把握させる。 |
| 時間  | 1    | 2   | 3   | 4    | 5                                 | 6 |   |   |   |   |     |  |  |  |  |  |  |      |                                     |
| 道のり |      |     |   |      |                                   |   |   |   |   |   |     |  |  |  |  |  |  |      |                                     |
| 中2  | 数と式  | 中2  | $2x - 4y + 7x + y$<br>No.1  | 92.9 | 今後も反復練習を多く取り入れたい。                 |   |   |   |   |   |     |  |  |  |  |  |  |      |                                     |

(学習内容の定着度が低かったもの；(小学校)正答率 70%前後未滿のものを中心として

(中学校)正答率 50%前後未滿のものを中心として)

| 学年     | 領域    | 学習年  | 問 題   | 正答率                   | 分析と対策例                       |     |        |       |        |      |  |      |
|--------|-------|--|---|-----------------------|------------------------------|-----|--------|-------|--------|------|--|------|
| 小1     | 数と計算  | 小1   | えんぴつが 3 ぼんと くれよんが 8 ぼんあります。えんぴつと くれよんの かずのちがいは なんぼんでしょう。<br>No.18   | 67.8                  | 問題場面をイメージし、具体物を利用していく。       |     |        |       |        |      |  |      |
| 小2     | 図形    | 小2   | の 色いたを つかって 下の 形を作ります。何まいで できるでしょう。<br>( を 4 枚使った平行四辺形) No.17   | 43.6                  | 形と大きさを把握するよう、具体物を使う。         |     |        |       |        |      |  |      |
|        | 数と計算  | 小2   | まさ子さんは シールを 53まい もっています。おねえさんの もっている シールのかずは まさ子さんの かずより 16まい 少ないそうです。おねえさんは シールをなんまい もっているでしょう。 No.20  | 71.2                  | 筆算の必要性和筆算の正確な方法について反復練習をする。  |     |        |       |        |      |  |      |
| 小3     | 数と計算  | 小3   | クッキーが 8 こあります。これをつかって $8 \div 2$ のしきになる問題を作りましょう。<br>No.14  | 68.5                  | 日常生活から、わり算を利用する場面を使う。        |     |        |       |        |      |  |      |
|        | 数量関係  | 小3   | 下の表は、まもるさんの学校の 3 年生が、図書館室でかりた本の数を表しています。目もりの数字を の中に書いて、ぼうグラフにしましょう。<br><table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>組</td> <td>1 組</td> <td>2 組</td> <td>3 組</td> </tr> <tr> <td>本(冊)</td> <td>2 8</td> <td>2 2</td> <td>1 6</td> </tr> </table><br>No.20 | 組                     | 1 組                          | 2 組 | 3 組    | 本(冊)  | 2 8    | 2 2  | 1 6  | 66.2 |
| 組      | 1 組   | 2 組  | 3 組   |                       |                              |     |        |       |        |      |  |      |
| 本(冊)   | 2 8   | 2 2  | 1 6   |                       |                              |     |        |       |        |      |  |      |
| 小4     | 数と計算  | 小4   | 次の にあてはまる分数をかきましょう。<br>(数直線の $5/7$ のところに が書かれている) No.8  | 46.2                  | 分数の意味について個別指導をしていきたい。        |     |        |       |        |      |  |      |
|        | 数と計算  | 小2   | 花を買いました。これを 4 人で同じ数ずつ分けたら、一人ぶんがちょうど 8 本になりました。花を何本買ったのでしょうか。(立式) No.17  | 49.1                  | 立式において、かける数とかけられる数の違いを理解させる。 |     |        |       |        |      |  |      |
| 小5     | "     | 小4   | $170 - 70 \div 2$<br>No.4   | 50.0                  | 計算ドリルを繰り返して行い、個別指導する。        |     |        |       |        |      |  |      |
|        | 数と計算  | 小4   | 下の表は、3ヶ月間で集めたあきかんの数を表しています。3ヶ月間であつめたあきかんの数を、百の がい数にして合計をもとめましょう。(立式)<br><table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>4 月</td> <td>5 月</td> <td>6 月</td> </tr> <tr> <td>1445 個</td> <td>958 個</td> <td>1262 個</td> </tr> </table><br>No.17                 | 4 月                   | 5 月                          | 6 月 | 1445 個 | 958 個 | 1262 個 | 48.4 | いくつの位を概数にすればいいか判断し、処理する力を身につけさせるため、ドリル等で個別学習させる。 |      |
|        | 4 月   | 5 月  | 6 月   |                       |                              |     |        |       |        |      |  |      |
| 1445 個 | 958 個 | 1262 個   |   |                       |                              |     |        |       |        |      |  |      |
| 数と計算   | 小4    | 52.5cm のリボンを、一人に 8 cm ずつ分けます。何人に分けられて、何 cm 分あまるでしょう。 No.20 | 62.8  | 文意の読みとりのため、同類問題に挑戦させる |                              |     |        |       |        |      |  |      |
| 小6     | 量と測定  | 小6   | 時速 72 km で走る電車があります。分速は何 m でしょう。 No.9   | 27.3                  | 時間や距離に関する内容を、復習する。           |     |        |       |        |      |  |      |
|        | 図形    | 小5   | 直径 20 cm の円の面積を求めましょう。<br>No.20   | 61.9                  | 円周と面積の公式を混同。反復練習させる。         |     |        |       |        |      |  |      |

|    |      |    |  |      |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |      |  |
|----|------|----|--|------|---|---|---|---|---|---|--|--|--|--|--|------|--|
| 中1 | 数量関係 | 中1 | 60・入る容器に毎分x・ずつ水を入れるとき、いっぱいになるまでy分かかるとする。このときxとyの関係を調べ、下の表を完成させなさい。<br><table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>x</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>y</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table><br>No.13 | x    | 1                                       | 2 | 3 | 4 | 5 | y |  |  |  |  |  | 33.5 | 比例に比べ反比例の定着が低い。日常の中から具体物を取り入れ、反比例の定着を図りたい。 |
|    | x    | 1  | 2  | 3    | 4                                       | 5 |   |   |   |   |  |  |  |  |  |      |  |
| y  |      |    |  |      |   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |      |  |
| "  |      | 中1 | yはxに比例し、x = -3のときy = 6である。yをxの式で表しなさい。<br>No.15  | 45.4 | 比例を数の変化ととらえさせる指導を進める。                   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |      |  |
| 中2 | 数と式  | 中2 | A町から14km離れているB町までいくのに、途中までは時速15kmの速さの自転車で進み、残りを時速4kmで歩いたところ、1時間40分で到着した。自転車で行った道のりをxkm、歩いた道のりをykmとして、連立方程式を作りなさい。<br>No.10   | 26.7 | 道のり・速さ・時間の関係を定着させるため、具体物を利用し、繰り返し指導したい。 |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |      |  |
|    | 数量関係 | 中2 | 1次関数 $y = ax + 5$ において、xの値が4増加すると、yの値は2減少する。Aの値を求めなさい。<br>No.16  | 25.9 | 変化の割合を、具体物を用いて復習する。                     |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |      |  |
|    | 図形   | 中1 | 底面の円の半径が4cm、母線の長さが12cmの円すいの側面積を求めなさい。(円周率は $\pi$ )<br>No.21  | 20.1 | おうぎ形の面積が出せない。反復練習したい。                   |   |   |   |   |   |  |  |  |  |  |      |  |

(考察や感想の一部)

『比例』に比べ、『反比例』のグラフの理解度が低く、その理由は授業中における具体物の不足からくるものであり、今後具体物による作業学習の必要性を感じる。ただし、それにはできるだけ学習集団を少なくすることが大切である」

(中学校1年担当)

『方程式の利用など』、生徒によって理解する時間が非常に異なる分野においては、日頃の少人数指導やTT指導の効果を強く感じるとともに、さらに少人数での指導の必要性を感じる」

(中学校2年担当)

「問題を作成する中で、教材分析や基礎・基本の洗い出しをしたが、『いいかげんな問題を作るわけにはいかない』と、皆が真剣な取り組みをしたことや、改めて1年間を通しての算数の系統性などが分かった」

(小学校4年担当)

「結果分析を学年会で報告したことにより、学年の中で共通の課題意識を持って、それからの授業反省も同一視点の中で行えるようになった」(小学校2年担当)

「小学校の中学年頃から、定着度に差が出てくるが、それを克服したい」

(小学校3年担当)

「小学校低学年においては、学習集団と生活集団の一体化が望まれる。そのためには、従来のTT指導や学習補助員の措置に加えて、学級人数自体の少人数化が望まれる」

(小学校1年生担当)

○ 「確かな学びの力のある子」を育てるために

新磐田市では、「確かな学びの力のある子」の育成のために、特に「基礎・基本の定着」と「個にあった学力の伸長」を重点課題としています。基礎・基本の定着のためには、市独自の定着度調査の結果分析や考察、日常の授業を通して、学校全体や学級、子供一人一人の学習内容の状況

を正確に把握し、一人一人の子供にあった目標や指導計画を立てることが大切です。基礎・基本について「反復による定着」や、内容の意味を学習しながら覚える「理解による定着」、実生活や他教科でどう役だっているかを実感する「利用による定着」を図っていくものと考えています。

「個にあった学力の伸長」についても、基礎・基本をもとに身につけた事柄との関連性の中、発展的な課題に取り組みせ、そこに十分な時間をとることが大切であると考えます。そのためにも、一人一人の子供の学習状況の把握、指導内容の見直しが必要です。

学級担任や教科担任は今まで以上に子供たちの状況把握に時間をかけ、一人一人にあった指導方法の工夫や改善をすることが必要です。校種や学年を問わず、全ての学校や学年で少人数学級編制の必要性が強く求められると考えます。

#### イ 郷土を愛する豊かな心の面より

##### ・ 児童生徒を取り巻く状況

現在の子供たちを取り巻く社会状況を全国的に考えた時、経済的生活水準の向上や地域間格差の縮小、情報取得の容易さ、家事等の簡便さ等子供たちにとって望ましい状況にある反面、物質優先主義や大人の子供への指導力の低下、地域への愛着心の喪失、インターネットに代表されるような子供同士の直接対話の減少、メディアによる刺激的な映像放映など、多くの問題も抱えています。

このような社会状況の中では、自分のまわりの小さな生き物の命や、自分以外の人への気持ち、美しいものに対する感動の心を育成することは、大変難しいと考えられます。心の喪失が、子供たちの様々な問題を生んでいます。

新磐田市でもこのような状況は例外ではなく、年々減少してきているとはいうものの、小・中学生による問題行動や、不登校児童生徒の課題も存在します。

##### ・ 問題行動の実態

新磐田市における、児童生徒の問題行動についての年度別件数は下の表の通りです。

|     | H12 | H13 | H14 | H15 |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| 小学校 | 61  | 55  | 59  | 55  |
| 中学校 | 110 | 108 | 114 | 79  |
| 計   | 171 | 163 | 173 | 134 |

人数だけを比較すると横ばいあるいは減少しているようですが、その内容を検討すると、以下のような傾向があることが分かりました。

万引き：小中学校ともに横ばい傾向にあるが、一件が高額化している。

粗暴行為：小中学校ともに器物破損、中学校においては恐喝行為が増加傾向にある。かつ、同一生徒によるケースが多い。

家出：中学校においては顕著な増加傾向にあり、長期化するケースが多い。

前述の通り、問題行動の件数は減少しているが、その内容が悪質化し、同じ児童生徒により、繰り返されていることが分かります。これらは、いったん心に負った傷がより深くなっていることを示し、改めて心の教育の必要性を感じます。

・ 不登校児童生徒の実態

新磐田市では、不登校児童生徒の減少を目指し、県の事業であるスクールカウンセラー、ハートケア相談員とともに、市単独措置として、心の教育相談員（中学校1人の相談員配置）をはじめ、「不登校児等対策連絡協議会」や研修会、個人カルテの導入、さらに適応指導教室の設置や教師のためのエンカウンター研修会等の事業を進めてきました。

現在の新磐田市の不登校児童生徒の年度別人数については、下の表の通りです。

| 年度    | H9  | H10 | H11 | H12 | H13 | H14 | H15 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 人数(人) | 148 | 156 | 179 | 195 | 217 | 178 | 170 |

(年間30日以上の欠席者)

この表により、不登校人数が減少しているとは言えない状況です。また、人数だけを比較せず、その発生率(児童・生徒数総数と不登校児童生徒の割合)を算出すると、

|    | H9   | H10  | H11  | H12  | H13  | H14  | H15  |
|----|------|------|------|------|------|------|------|
| 新市 | 0.84 | 0.91 | 1.09 | 1.22 | 1.39 | 1.17 | 1.15 |
| 全国 | 0.85 | 1.06 | 1.11 | 1.17 | 1.23 | 1.18 | -    |

と、増加傾向からほぼ横ばい状態であり、全国のものと比較しても、本市の課題の一つと言えます。

中学校生徒が不登校となった直接の原因の中で、友人や教師との人間関係や、学業等「学校生活に起因している」場合が多いことから、学校教育の中で「他を思いやる心」の育成をさらに推進していかなければならないと考えます。

1学級の人数を減らし、学級担任が個々の生徒とのかかわりを時間的にも質的にも多くし、担任と児童生徒とより深く交流することで、不登校に関わる諸問題を解決していきたいと考えています。そのため

には、35人以下の学級を措置することが急務であると考えています。

○ 「郷土を愛する豊かな心を持つ子」を育てるために

子供たちにとって、「学校が楽しい」「みんなが認めてくれる」「先生がよく話を聞いてくれる」という自覚があれば、「心の問題」の多くは解決していくものです。学校生活の中で、児童生徒が学級への所属感を持ち、学級での存在感を感じることで、つまり学級の中で「生きる」ことができれば、問題行動への誘惑に打ち勝てると思います。

一人一人の子供の心の状態にあった的確な具体的指導の中で、地域の「人・もの・こと」とかかわらせ、子供自身の心の中に、反省や感動、思いやりの心を与えることが大切と考えます。それが子供の心に、生命を尊重し他を思いやる心、美しいものや自然に感動する心とともに、郷土を愛し奉仕する心など「郷土を愛し豊かな心」を育むと考えます。

このような指導態勢をつくりあげることが、不登校や問題傾向などを持つ子供たちだけでなく、その他のほとんどの子供たちへの心の育成につながっていくものと考えます。学級担任ができるだけ多くの時間、個々の児童生徒へかかわり心の状態を正確に把握すること、それにより個にあった目標を立てることで、学級担任と児童生徒が一体となって生き方を考えていくことが大切であり、学級編制の弾力化による少人数学級が必要であると考えます。

## 5 構造改革特別区域計画の意義

合併予定の1市3町1村では、従来から「学校いきいきプラン補助員」や「特別に支援を要する学級への補助員」など、市町村独自の補助員等を配置し、確かな学力の定着や、よりよい学級づくりを通して心の育成を目指してきました。今回の特例により、学級担任等の責任と役割を持つ地域に根ざした市費負担教員「ふるさと先生」を任用し、35人学級を実施します。このことにより、一人一人の学力や心の状態を正確に把握し、個の実態に応じた目標や指導計画を立て、新市教育の重点である「確かな学びの力のある子」「郷土を愛する豊かな心を持つ子」の育成を目指すことが、本市における構造改革特別区域計画の意義であると考えています。

具体的な取り組みとしては、平成16年度からすでに県が実施している中学校1年生支援プログラム（中学校1年生において36人以上の学級は1学級増としても可）に加え、平成17年度以降の実施計画は次の通りとし、段階的に市内小中学校の全学年において少人数学級を実施していきたいと考えています。



- ア 実施学年：平成 17 年度 小 1 (中 1)、2  
 平成 18 年度 小 1、2、3 (中 1)、2、3  
 平成 19 年度 小 1、2、3、4、5、6 (中 1)、2、3

ただし、合併後の学校数は、小学校 23 校、中学校 10 校。

- イ 平成 17 年度から 19 年度における、市費負担教員の人数。

| 年度 | 平成 17 年度 | 平成 18 年度 | 平成 19 年度 |
|----|----------|----------|----------|
| 人数 | 16       | 32       | 47       |

3.5 人学級適応学校とその内訳 (H16、9、10 調べより)

|      | 平成 17 年度  | 平成 18 年度  | 平成 19 年度  |
|------|-----------|-----------|-----------|
| 旧磐田市 | 磐田西小 (1)  | 磐田北小 (2)  | 磐田北小 (4)  |
|      | 東部小 (1)   | 磐田西小 (1)  | 磐田西小 (2)  |
|      | 長野小 (1)   | 東部小 (1)   | 東部小 (2)   |
|      | 田原小 (1)   | 長野小 (1)   | 長野小 (1)   |
|      | 富士見小 (1)  | 田原小 (1)   | 向笠小 (2)   |
|      | 磐田第一中 (1) | 富士見小 (1)  | 田原小 (1)   |
|      | 城山中 (1)   | 磐田第一中 (2) | 富士見小 (2)  |
|      | 南部中 (1)   | 城山中 (2)   | 磐田第一中 (2) |
|      |           | 向陽中 (1)   | 城山中 (2)   |
|      |           | 神明中 (1)   | 向陽中 (1)   |
|      | 南部中 (1)   | 神明中 (1)   |           |
|      |           | 南部中 (1)   |           |
|      | 8 人       | 14 人      | 21 人      |
| 旧福田町 | 福田小 (1)   | 福田小 (3)   | 福田小 (4)   |
|      | 福田中 (1)   | 福田中 (1)   | 福田中 (1)   |
|      | 2 人       | 4 人       | 5 人       |
| 旧竜洋町 | 竜洋中 (1)   | 竜洋北小 (2)  | 竜洋北小 (3)  |
|      |           | 竜洋西小 (1)  | 竜洋西小 (2)  |
|      |           | 竜洋中 (2)   | 竜洋東小 (2)  |
|      |           |           | 竜洋中 (2)   |
|      | 1 人       | 5 人       | 9 人       |
| 旧豊田町 | 豊田南小 (1)  | 豊田南小 (2)  | 豊田南小 (3)  |
|      | 豊田北部小 (1) | 豊田北部小 (3) | 豊田北部小 (3) |
|      | 豊田中 (1)   | 青城小 (1)   | 青城小 (1)   |
|      | 豊田南中 (1)  | 豊田中 (1)   | 豊田中 (1)   |
|      |           | 豊田南中 (1)  | 豊田南中 (1)  |
|      | 4 人       | 8 人       | 9 人       |
| 旧豊岡村 | 豊岡北小 (1)  | 豊岡北小 (1)  | 豊岡北小 (2)  |
|      |           |           | 豊岡中 (1)   |
|      | 1 人       | 1 人       | 3 人       |
| 計    | 16 人      | 32 人      | 47 人      |

## 6 構造改革特別区域計画の目標

市費負担教員の任用をすることにより、市内小中学校の全学年において35人学級を実施し、一人一人をより大切にしたいきめ細やかな指導を実現することで、「心豊かで、たくましい磐田の子」を育成します。

### (1) めざす子供像「心豊かで、たくましい磐田の子」

#### ア 確かな学びの力のある子

- ・ 基礎・基本の定着
- ・ 個にあった学力の伸長

#### イ 郷土を愛する豊かな心を持つ子

- ・ 生命を尊重する心や他を思いやる心
- ・ 郷土を愛する心や奉仕する心

「確かな学びの力のある子」を育むためには、まず基礎・基本の確実な定着を図ることが大切です。基礎・基本には、従来から言われるような「読み・書き・計算」など、発展的な学習の基盤となるものがあり、その定着のためには、教えるべき部分については徹底して教え、知識や技能が定着する方策について創意工夫をするなどして、身につけさせなければなりません。また、学習内容の定着度が高い子供についても、今以上の学びの力を身につけさせるためには、「一人一人の良さや可能性」を認め伸ばす指導に努めるとともに、自ら課題を見つけ、意欲をもって学び続け、個に応じた資質や能力を高めるなど、児童生徒が主体的に学習できる環境の設定をする必要があります。

「郷土を愛する豊かな心を持つ子」を育むためには、まわりとのかかわりを通じて、生命を尊重する心や他を思いやる心、美しいものや自然に感動する心などの育成を重視した「心の教育」が必要です。さらには、自分が生きる地域に目を向けさせることで、郷土を愛する心、奉仕する心などを養っていきたいと考えます。

これらの指導を効果的に展開するため、新磐田市では構造改革特別区域の認定を受け、小・中学校のそれぞれの学級の児童生徒数が36人以上の場合、新たに学級担任の責任と役割を持った市費負担教員を1名配置し、少人数学級編制（35人学級）を行うことで、確かな学びの力のある、郷土を愛する心豊かな子が育つと考えています。

35人学級の実施は、従来の学級編制ではできなかった課題が次のように変わり、一人一人を大切にしたい教育が展開できると考えます。

#### ○ 確かな学びの力のある子の育成

- ・ 一人一人の児童生徒に目が届きやすくなり、児童生徒一人一人の学

力をより正確に把握できる。

- ・ 一人一人の児童生徒の実態に応じた目標や、指導計画が立てやすくなる。
- ・ 児童生徒の学習内容の修得が高まり、分かる喜びや達成感が得られる。
- ・ 児童生徒の学習での発言の機会が増え、学級所属感がより得られる。
- ・ 個別指導の際、繰り返しなど指導時間がより長くとれる。
- ・ 個に対応した授業展開がより可能になり、学習内容の定着度が高い子供についても、発展的な学習に取り組むことができる。

○ 郷土を愛する豊かな心を持つ子の育成

- ・ 個々の児童生徒へのかかわりの時間が増えることで、学級担任が児童生徒の心の状態をより正確に把握できる。
- ・ 児童生徒の心の実態に応じた目標や、指導計画が立てやすくなる。
- ・ 児童生徒への教育相談にも時間がとれ、より深い支援ができる。
- ・ 児童生徒が係り活動等の役割を果たすことで、学級への所属感が得られる。
- ・ 様々な活動の中、郷土の歴史的・文化的遺産を意識して活用することで、児童生徒の目が郷土に向く。

「心豊かで、たくましい磐田の子」の育成は、将来の磐田市を担う人材の確保という意味において、とても大切なものと考えます。子供の心に「ふるさと磐田」を定着させることで、磐田市のこれからを真剣に考えてくれる人が増えること、また磐田市から離れていても、「いつかは戻ろう」と考える基礎を心に刻みつけるような教育をしていきたいと考えています。

7 構造改革特別区域計画の実施が構造改革特別区域に及ぼす経済的社会的効果

(1) 学習指導面（「確かな学びの力のある子」の育成）から見た効果

ア 小学校低学年の少人数学級編制は、幼稚園・保育園から小学校に入学した際、円滑な移行を可能にするうえで、落ち着いた学習環境が定着すれば、学習への集中を生み、学習効果があがると考えます。

イ 中・高学年においては、学習内容の定着度の差が顕著に表われ始めるこの時期に、少人数学級編制にすることで、一人一人の児童生徒の学力の把握、実態に応じた指導計画が立てやすくなり、学習内容の基礎・基本がしっかりと身につくと考えます。

ウ 中学校1年生では、その入学時に授業が学級担任制から教科担任制に

変わったり、教科の内容が難しくなり進度も速くなったりするなど、学習環境の変化に適応できないことへの対応がスムーズに行われ、それとともに学習効果が上がると考えます。

エ 中学校2・3年生では、義務教育からの旅立ちを目のまえにした生徒たちへの、学習内容の基礎・基本の定着が図られ、学級担任が一人一人の特性を生かした指導にあたることができると考えます。

オ 授業中、児童生徒の学習での発言の機会が増え、学級内での所属感がより得られると考えます。

(2) 生活指導面（「郷土を愛する豊かな心を持つ子」の育成）から見た効果

ア 個々の児童生徒へのかかわりの時間が増えることで、学級担任は児童生徒の心の状態が正確に把握でき、より理解が深まると考えます。

イ 心の状態の正確な把握から、個にあった指導方策を立てることができ  
ます。

ウ 児童生徒への教育相談にも時間がとれ、より深い支援ができると考え  
ます。

エ 多くの子供たちが係り活動等の役割を果たすことで、学級での所属感  
を得られると考えます。

オ 問題傾向を持つ児童生徒へ深く関わることで、問題行動の繰り返し  
が減ると考えます。

(3) 地域の人材育成面から見た効果

ア 市費負担教員を配置することにより、地域の保護者や住民の教育に対  
する関心が高まると考えます。

イ 地元「ふるさと先生」の採用をすることで、郷土意識の高揚や郷土愛  
につながると考えます。

(4) 教員に関する課題解決面から見た効果

市採用の教員が配置されることにより、従来の県費教職員の意識改革  
や教育改革に向けての刺激につながると考えます。

(5) 経済面から見た効果

平成17年度は16人、平成18年度は32人、平成19年度は47  
人と、増加教員分の雇用の創出ができます。

## 8 特定事業の名称

### 810 市町村費負担教職員任用事業

## 9 構造改革特別区域において実施し、又はその事業を促進しようとする特定事業に関連する事業その他の構造改革特別区域計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

### (1) 教科領域等指導員（1市3町1村 - 新磐田市 - 指導員制度）

現在、1市3町1村（新磐田市地域）の各教育委員会に教科・領域等指導員制度を置き、各教育委員会から委嘱された指導員が、年間2回程度の学校訪問や授業参観をする中で授業に関する指導をしたり、同じく年間1回自らの授業を見せることにより、教職員の教科・領域等における指導の深化と研修の推進を図っています。

また、指導員自身の指導力を向上させることを目的として、年間4回程度指導員が一堂に会する研修会を設置し、講師講話や学習に関する研修を積んでいます。

この制度の中、教員が学習指導の研究を進めることで、児童生徒の学習の基礎基本や、「自ら学ぶ」意欲の向上につながっていると考えます。市費負担教員任用により、これらの成果がさらに向上すると考えます。

### (2) 磐南5市町村学習内容定着度調査

磐南5市町村（新磐田市地域）内の児童生徒の学習内容定着度を的確に把握し、基礎学力向上に向けての学習指導改善のための基礎資料とすることを目的とし、平成15年度より学習内容定着度調査を行っています。実施学年は小学校は全学年、中学校は1・2年、教科は国語と、算数・数学です。

学習内容定着度調査実行委員会より委嘱を受けた磐南5市町村内の教員が、学習内容定着度調査問題作成委員となり、問題作成にあたり、調査実施後、問題作成委員会が分析委員会を組織し、定着度を分析します。全体の分析結果が出された後、結果を各学校に連絡し、各学校で教科部会や学年会を開いて日頃の学習指導や学級の様子などの課題を洗い出し、今後の学習指導のあり方を検討します。これは来年度の新学年にも申し送り事項として引き継ぐこととなります。

市費負担教員の任用は、今まで以上に少ない人数での学習指導を行い、学習内容の定着度を図る意味においても、大変有意義なことであると考えます。

(3) 学校自慢づくり事業・魅力ある学校づくり事業

学校（園）の教育目標具現化のため、校長（園長）のリーダーシップの下、自校（園）の伝統や地域の文化、自然等の良さをしっかりと受け止める中で、子供の学びや育成に必要なものを重点化して、教育活動に取り入れるなど、その学校（園）ならではの特色ある教育を推進しています。

具体的には、小学校での「みんなちがってみんないい」を合言葉とする人権教育、縦割り教えあいを中心とした思いやりの心を育む校技の縄跳び、地域の協力により作り上げたビオトープを活かした環境教育、中学校での福祉や環境問題など生徒主体の体験学習を重視したチャレンジ活動など、各校地域性を考えた「自校の自慢づくり」に取り組んでいます。これらの活動を通し、教科や特別活動、道徳等全般において、学校教育目標の具現化が展開しています。

地域の人材を活用する市費負担教職員「ふるさと先生」の任用は、各校がこれら地域に密着した活動を推進する意味において、大変効果的であると考えます。

(4) 学校評議員制度（学校協議会制度）

地域に開かれ、信頼される学校づくりを進めるために、地域の方々を構成員とする学校評議員制度（学校協議会制度）を各校におき、委員の意見や提言を教育活動等に反映させ、児童生徒の健全育成、学校教育活動の充実に資することを目的として実施しています。

また、旧磐田市では、年間1回市内学校協議会委員が一堂に会し、講師講話を聴き、さらに学校協議会のよりよいあり方や、学校への提言のあり方等を検討する研修会を開きます。

市費負担教員の任用は、地域に密着した学校評議員（学校協議会委員）の意見を学校において具現化する意味において、より効果的であると考えます。

(5) いきいきプラン補助員等

合併予定の全市町村において、個に応じたきめ細やかな指導を一層充実させ、子供たちの確かな学力の向上を図るため、教員の指導を補助する「学校いきいきプラン補助員」等を配置し、いきいきとした魅力ある学校づくりを目指しています。活動内容は、基礎・基本の定着のための教員の指導補助、総合的な学習の時間の充実のため教員の指導補助、その他校長が認

める活動です。

市費負担教員の任用は、基礎・基本の定着や総合的な学習の定着等、その目的において、大変効果的であると考えます。

(6) 特別に支援を要する運営困難学級補助員

市内小・中学校において、その学級の運営が著しく困難な状況にある時、学級担任を補助する補助員（市嘱託）を配置することにより、正常な教育活動の推進を図っています。対象となる学級は、極めて多動な児童生徒が在籍している、極めて重い情緒障害児が在籍している、極めて肢体に不自由がある児童生徒が在籍している場合です。養護学級もこれに準じて配置されています。平成16年度においては、8人が配置され、7人が養護学級、1人が通常の学級に配置されています。

## 別紙

### 1 事業の名称

810 市町村費負担教職員任用事業

### 2 事業を実施しようとする者

磐田市教育委員会、福田町教育委員会、竜洋町教育委員会、豊田町教育委員会、豊岡村教育委員会

### 3 事業適用の開始の日

平成17年4月1日

### 4 事業の内容

#### (1) 事業に関与する主体

磐田市教育委員会、福田町教育委員会、竜洋町教育委員会、豊田町教育委員会、豊岡村教育委員会

#### (2) 事業が行われる区域

磐田市、福田町、竜洋町、豊田町、豊岡村の全域  
(平成17年度合併予定の静岡県磐田市の全域)

#### (3) 事業の実施期間

平成17年度から実施

#### (4) 事業の内容

市費負担の常勤の教員を任用し、市内の全小・中学校において、段階的に35人学級を実施する。平成17年度は小学校1年生及び中学2年生を(中学校1年生については、県が中1支援プログラムにより実施済み)、平成18年度は小学校1・2・3年生及び中学校2・3年生を、平成19年度には全学年を35人学級とします。平成17年度は16名、平成18年度は32名、平成19年度は、47名の任用となる予定です。

### 5 当該規制の特例措置の内容

平成17年度合併予定の新磐田市では、本地域が奈良時代の国府所在地であったこと、江戸時代には宿場として繁栄していた東西交通の要衝だった歴



史面や、住民参加の芸術祭やこどもミュージカルをはじめとする文化面を通じた「歴史と文化のまち」という特性を生かし、「自然あふれ、歴史・文化薫るゆとりと活力のまち」を目指しています。また学校教育においては、「心豊かで、たくましい磐田の子」を育成できるよう、心の教育の充実を図っていきたいと考えています。そのためには、基礎・基本の定着や、個にあった学力の伸長を図るなど、「確かな学びの力のある子」や、生命を尊重する心や他を思いやる心、郷土を愛する心や奉仕する心など、「郷土を愛する豊かな心を持つ子」を育むことが大切です。

児童生徒の実態を学習面からとらえると、独自の算数・数学の定着度調査から、「数と計算」「数と式」領域の文章問題や、「数量関係(関数)」に、定着率が低いことが分かります。その原因を、「授業中における具体物利用の不足からくるもの」ととらえる教師が多く、「学習時間がかかる具体物利用の授業は、より少人数で進めたい」という意見があがっています。これは算数・数学に限ったことではなく、他の教科においても、児童生徒により理解する時間が非常に異なる領域については、具体物を活用した授業や個別指導に、少人数での授業が望まれています。さらに、学習集団と生活集団の一体化の大切さも、多くの教師が述べています。生活面では、問題行動の件数こそ減少しているものの、万引きの高額化、器物破損や恐喝の同一児童生徒による繰り返しなど、課題点もあります。また、不登校についても、平成13年度までの急増や全国との比較を考えた時、課題点の一つと考えざるを得ません。

それらの課題を解決するために、学習と生活の両面において、児童生徒が存在感や所属感を持てる「楽しい学校」「認めてくれる学校」「先生がよく話を聞いてくれる学校」をつくることが最重要課題であり、子供たち一人一人を徹底的に大切にできる少人数学級の実施が急務です。新磐田市の次代を担う、かけがえのない子供たち一人一人を大切にした教育を展開することは、郷土の発展、ふるさとの将来を託す人材の育成を目指すためにぜひ必要であると考えています。

#### 添付資料

- 1 構造改革特別区域に含まれる行政区域を示した図（県内）
- 2 構造改革特別区域に含まれる行政区域を示した図  
(平成17年4月1日合併予定の1市3町1村を示した図)
- 3 構造改革特別区域計画の工程表
- 4 構造改革特別区域計画の工程表説明文書